

特定非営利活動法人 日本免疫学会
2025 年度 前期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	南 風花	会員番号	008511		
申請者の所属・職名	京都大学大学院 医学研究科 皮膚科学講座・研究員				
出席会議名	82 nd Annual Meeting of Society of Investigative Dermatology (SID)				
発表論文タイトル	CD301b ⁺ cDC2 facilitate cytotoxic T lymphocytes activation within inducible skin-associated lymphoid tissue in contact dermatitis				

実施結果:

この度は、Tadamitsu Kishimoto International Travel Award にご採択いただき、誠にありがとうございました。岸本忠三先生をはじめ、選考にご尽力下さった日本免疫学会の先生方に心より御礼申し上げます。

私は今回、2025年5月7日から10日にサンディエゴにて開催された Society of Investigative Dermatology (SID, アメリカ研究皮膚科学会) 学術集会に参加いたしました。Concurrent Mini-symposium “Adoptive and Auto-immunity” のセッションにおいて、「炎症部皮膚に形成される樹状細胞クラスター (iSALT) 内における細胞間相互作用機構」について口頭発表を行いました。質疑応答では、「本研究で示した相互作用機構が iSALT 内に特異的なものであるか」、また「他の皮膚疾患においても同様に iSALT の形成や相互作用機構が認められるのか」といった、研究を深める重要なご質問を頂きました。いずれも論文化において査読者から注目されるであろう観点であり、帰国後にはさらなる検討を進める予定です。

会期中には、アトピー性皮膚炎における新規治療戦略に関する発表が数多くみられ、特にステロイド外用剤に依存しない分子標的薬の開発が活発に進められている点が印象的でした。アメリカにおける創薬研究のスピード感と、基礎研究から社会実装へと繋げる連携の強さを肌で感じることができ、今後のヒト検体を用いた検討がとても楽しみに思いました。また、博士課程修了後の研究テーマを設定する上でも非常に有益な経験となりました。

今回の滞在では、カルフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD) Richard Gallo 教授が主宰する皮膚科学研究室を訪問させて頂く機会も得ました。ポスドクとしてご活躍中の Tomofumi Numata 先生ならびに Gallo 先生との Meeting に同席させて頂き、実験結果に対する活発なディスカッションを見学させていただきました。また、私自身の研究内容についても簡単にご紹介する機会を頂き、貴重なフィードバックを頂きました。さらに、その他研究員の先生方から「ストレスが TGF- β を介して真皮線維芽細胞の抗菌ペプチド産生を抑制する」という Science Immunology 掲載の研究成果や、「CXCL12 陽性線維芽細胞が乾癬における好中球のリクルートと炎症誘導に寄与する」という研究成果をご紹介いただきました。いずれも、線維芽細胞という共通の細胞に着目しつつも異なる切り口から展開されており、その独自性や論文化までのスピード感に大きな刺激を受けました。

今回の学会参加および研究室訪問を通じて、国際的な研究環境に身を置き、さらなる成長を目指したいという思いが一層強くなりました。このような貴重な機会を賜りましたこと心より感謝申し上げるとともに、ご推薦頂きました樋島健治教授、日頃よりご指導頂いている朝比奈良太先生、ならびに見学をご快諾頂いた UCSD Gallo ラボの先生方に改めて深く御礼申し上げます。